

2007年度 北大生協

環境報告書



= CONTENTS =



■ 表紙の写真

北大の色彩

北大の札幌キャンパスは南北に約1.5Km, 東西に約1Kmという広大な面積を札幌駅すぐ近くに保有しており, 市民も憩える空間となっております。

このキャンパス内には北大の代名詞とも言うポプラだけではなく白樺, 桜, 銀杏, 楓, など春から秋にかけて北大に集う者の目を楽しませてくれます。

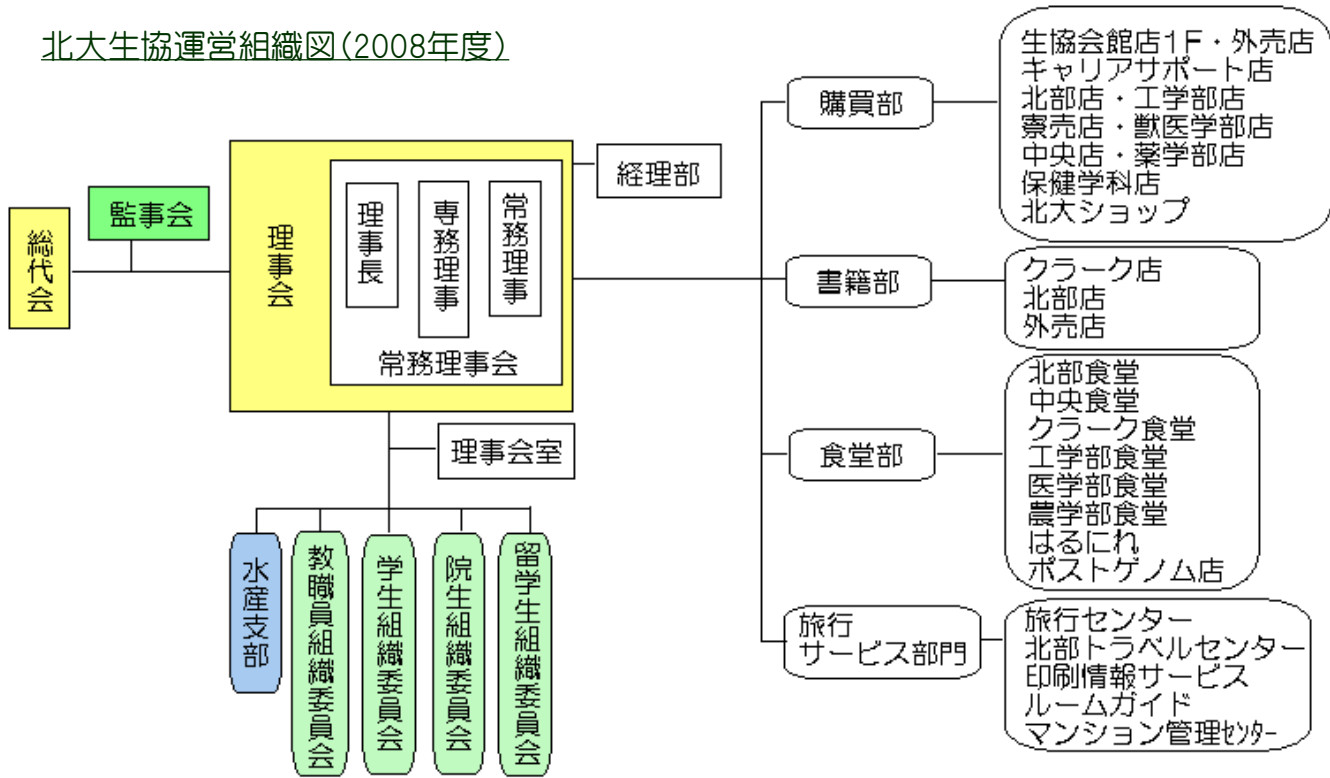
木々だけではなく初夏の札幌の透き通った青い空と白い雲, 深緑の木々とのコントラストにも心を洗われることでしょう。

私たちは北海道大学と共にこの恵まれた自然環境を後生の北大人や市民に今以上の形で引き継げるように努力したいと思っております。

1	CONTENTS
2	北大生協の事業概要
3	専務理事あいさつ
4	環境方針
5	環境実施体制
6	2007年度の委員会活動
	---環境監査委員会---
7	---レジ袋削減運動推進委員会---
2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介	
8	情報公開
9	環境教育
	---大学祭でのゴミナビゲーション---
10	省エネルギー<電気使用量>
11	---CoolBizの実施---
	---生協会館店の電気使用量推移---
12	省エネルギー<ガス・ガソリン他>
13	省資源<水・紙・包装資材>
14	資源の循環利用
	<使用済みカートリッジ回収・産廃>
15	資源の循環利用
	<ビン・缶・ペット・割り箸>
16	資源の循環利用<BDF>
	---大学リユース市協議会---
17	グリーン適合商品の優先供給
18	排水の管理
19	放置自転車対策
20	燃えるごみの分別状況
21	2007年度の環境目標と実施状況

= 北大生協の事業概要 =

北大生協運営組織図(2008年度)



※店舗のマネージメント体制は2008年度にエリア制から部門制に変更しました。

組合員概況表 (2008年2月28日現在)

構成区分	組合員数	構成区分	組合員数
<input type="checkbox"/> 学生	14,213	<input type="checkbox"/> 生協職員	711
<input type="checkbox"/> 大学院生	6,139	<input type="checkbox"/> その他	1,145
<input type="checkbox"/> 教職員	7,402	<input checked="" type="checkbox"/> 合計	29,610
出資金総額		454,560,000円	

●組合員は毎年順調に増えています。学生組合員の約1/4は卒業入学で毎年入れ替わっておりますが、90%以上の高い加入率を維持しております。

●利用点数、レジ通過人数は過去最高を更新しましたが、高額商品の利用が減っていることから利用金額(供給高)は6年連続減少しております。

●費用を抑えるなどして剰余の確保を目指しましたが、結果として前年の供給高には達しませんでした。

■主要数値

項目	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
組合員数	27,452	28,011	28,590	29,193	29,610
出資金総額(千円)	438,335	441,915	447,214	452,790	454,560
総供給高(千円)	7,042,732	6,597,112	6,530,183	6,504,334	6,342,700
経常剰余(千円)	▲ 25,231	11,437	32,366	25,342	24,897
正規職員数	77	65	63	61	61
定時パート職員数	188	191	195	208	208

■部門別供給高

部門	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
購買(千円)	2,806,833	2,471,596	2,580,945	2,582,035	2,573,305
書籍(千円)	1,073,447	1,012,672	994,360	991,757	966,893
食堂(千円)	736,370	693,200	659,085	770,083	792,891
旅行(千円)	2,100,923	2,111,659	2,012,828	1,875,766	1,684,456
その他サービス(千円)	325,159	307,985	282,965	284,693	325,155
合計	7,042,732	6,597,112	6,530,183	6,504,334	6,342,700

= 専務理事挨拶 =



2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介

2005年度から行っております「環境配慮へのとりくみ紹介」を今年も作成いたしました。

今回から名称を「環境報告書」とし、前年との比較を中心にご報告できるようになってきました。

今年は7月に洞爺湖町で環境問題をテーマとしましたG8サミットが開催されます。また、北海道大学ではそれに先立ち、持続可能(サスナビリティ)な社会の実現に貢献する研究と教育を推進する事業にかかわる様々なとりくみが予定されております。

北大生協は、2005年9月に北海道大学の環境方針が定められたことを受けまして、2005年10月にはこの環境方針に沿って環境負荷の低減と環境保全に努める事を目的にした「北大生協環境方針」を決定しました。さらに、「環境保全は私たちが行う様々な活動の基礎である」との認識にたち、様々な福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的かつ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定してまいりました。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と、北大生協独自の環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めています。

この間の取り組みをご紹介しますと、2006年度から行っている①道内産の持続可能な森林育成につながるFSC認証林の間伐材を使った割り箸の採用(06年10月から)②食堂から出る廃油の再資源化(06年11月から)③大学内の放置自転車の再商品化(06年11月から)などに続き、2007年度はレジ袋の削減と食堂を中心としたごみ分別の強化に努めております。

今後は、理事会のもとに設置した環境課題推進委員会で2007年度の課題に引き続き取り組むのはもちろん、食品リサイクル法に基づいた生ごみや一般ごみの分別、レジ袋の削減に向けた取り組み等を強化していきます。

毎年、確実に一歩・一歩前進していきたいと思っておりますので、引き続きご指導をお願いします。

専務理事 中村 伸司
2008年6月23日



= 環境方針 =

●北大生協は2005年10月24日の第5回理事会において下記の「北大生協環境方針」を決定しました。北大生協は「大学とその構成員への貢献をとおして大学を発展させる立場」、「北海道大学の福利厚生を担う構内事業者としての立場」、「北海道大学の環境方針及び環境マネジメント実施体制を尊重し環境への負荷低減に努める立場」からこのとりくみ紹介を公開いたします。

北大生協環境方針

●私たち北海道大学生協同組合は、環境保全は私たちの行なう様々な活動の基礎であるとの認識にたち、様々な福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的かつ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定します。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と汚染の予防をはかり、環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めていきます。

- 1)北海道大学の環境方針、環境関連の法律、規制、条例及びその他受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- 2)北海道大学の環境マネジメント実施体制に積極的に参画します。それらの活動に参加する組合員の活動を支援します。
- 3)生協施設における電気・ガス・水道および紙・包装資材の使用量を抑制するとともに、事業系廃棄物の削減・再資源化に努めます。
- 4)環境負荷に配慮した商品の開発・改善・普及をすすめます。また「グリーン購入」の、取り組みを推進します。
- 5)学生・院生の環境配慮に関する活動の場をたくさん作り、北大構成員自身による環境活動を広げます。

●この環境方針を内外に公開するとともに、環境活動への取り組み状況について定期的に公表します。また方針を具体化していくうえで役職員(理事・監事・組織委員・生協職員)の日々の実践の積み重ねを大切に、全役職員への教育・学習を積極的に行い、さらに学生・教職員を対象とする啓蒙活動と諸活動への参加の呼びかけを行って、環境方針の理解と環境意識の向上を図ります。

2005年10月24日
北海道大学生協同組合
第5回理事会

《北大生協の3つの使命》

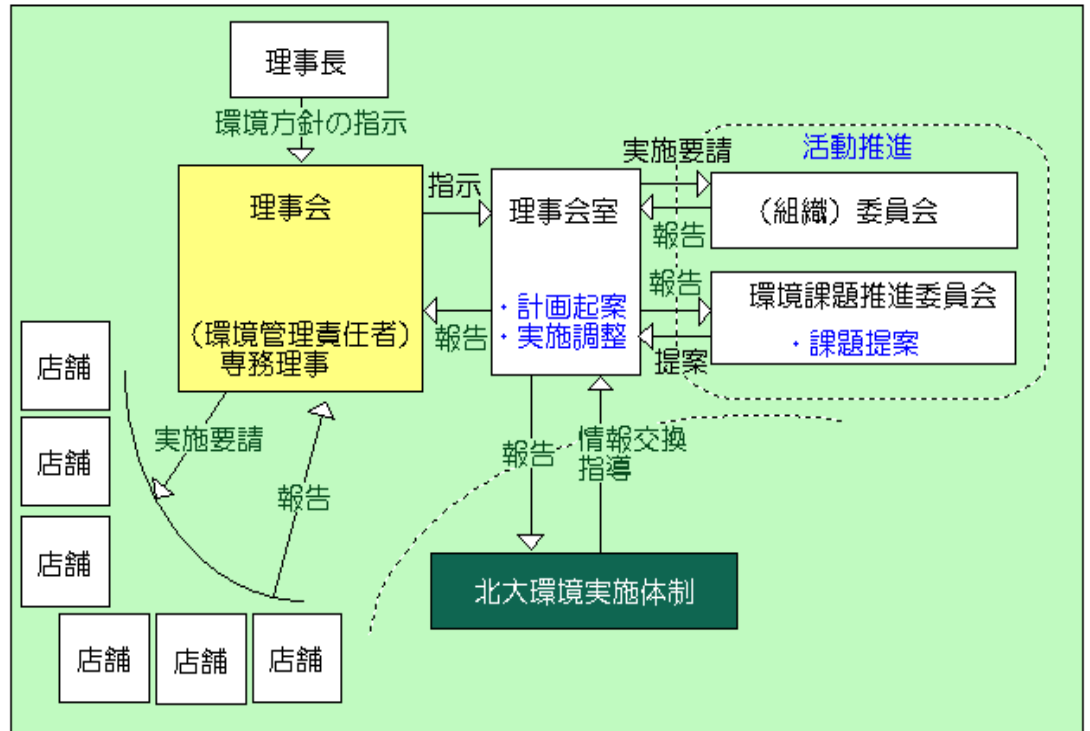
- 1.北大生協は、北大の勉学・教育・研究の発展に安心と信頼のサービスで貢献します。
 - 2.北大生協は、学生・院生の自立・成長と学内構成員の協力・共同の促進に寄与します。
 - 3.北大生協は、持続的発展可能な地域社会・国際社会の実現に向けて力を尽くします。
- 北大生協は自らに課した上記「3つの使命」を基本とし環境配慮へのとりくみを展開します。

= 環境実施体制 =

● 北大生協の環境実施体制は独立した体制ではありませんが、北海道大学の環境配慮のとりくみを尊重し北海道大学の環境実施体制と情報交換・報告を密に取りながら実施しております。

● 2006-2007年度まで位置づけていた環境監査委員会の役割はステークホルダー委員会的に活動への監査と実施内容・体制などへのご意見をいただく事が中心でした。

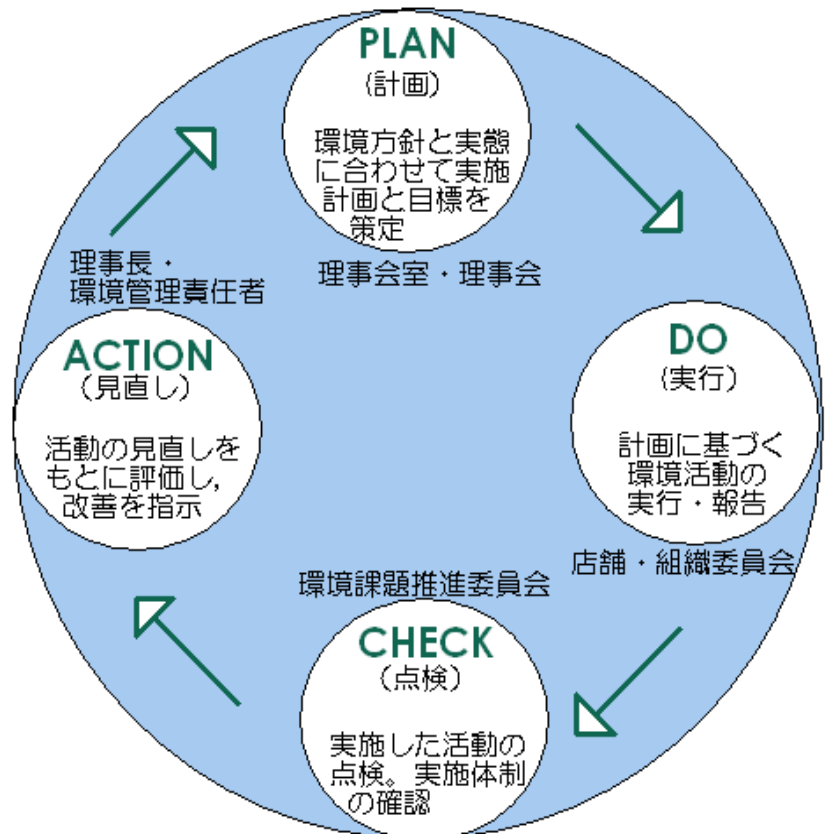
2008年度は名称を「環境課題推進委員会」とし、活動内容も環境課題の提起からはじまり、各組織委員会とともに運動の推進役としての役割が大きくなります。



※2008年度から実施体制を一部変更しました。

●環境マネジメントの実施サイクルは生協の事業活動のサイクルと同じでP-D-C-Aサイクルの手法を取り入れます。

■ とりくみの実施サイクル



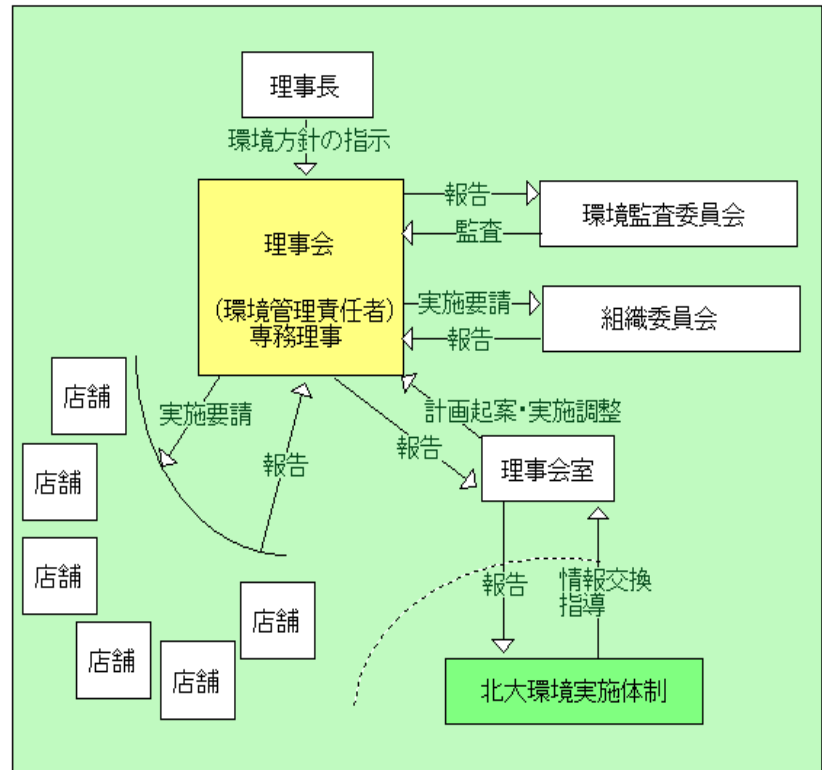
= 2007年度の委員会活動 =

●環境監査委員会

<目的>

1. 理事会の実施する環境配慮へのとりくみ状況が「北大生協環境方針」「2007年度の環境目標と実施状況」に沿って行われているかどうか、その進行状況などについて検討する。
2. 現状の評価や今後の課題などについてステークホルダーとして意見を出し合う場とする。

2007年度の環境実施体制



2007環境監査委員会報告

2008年5月7日環境監査委員会を開き、環境データととりくみ状況を確認し、2007年報告と2008年度の課題を整理しました。

●環境実施目標に沿った活動の点検を行い、以下の意見が出されました。

- ・消費生活を通じての環境問題へのアプローチを店頭や広報で表現することが生協として求められるが、そのための啓蒙活動などが組織委員会の活動として弱い。
- ・消費エネルギーの量的な把握はできるようになってきたようだが、冷房暖房とも温度コントロールができないのであれば、今後どのようにしてエネルギー消費を抑えていくのか？
⇒冷暖房を温度管理のできるタイプに変更することは費用的にかなり無理があるので、当面は冷暖房の稼働時期・時間のコントロールや省エネ型照明機材への更新などで消費を抑えていきたい。
- ・削減目標数値のない消費抑制努力だけではエネルギー削減は難しいのではないか？
⇒2008年度は水質検査費用を予算化した。
- ・CO2削減としてリユースが一番効果がある。より一層ガンバッテ定着させて欲しい。(リユース市・不要自転車のRecycle)
- ・グリストラップにオゾン分解装置を付けたが、その後の水質の検査をやらないと効果が分からない。
- ・レジ袋削減がある程度進んでいることが確認できた。しかし、環境などに問題意識を持っている人は素直に協力するだろうが、関心のない人は変わらない。
もっと、利用者に直接還元される方法を導入してはどうか？(ポイント還元・値引きなど)

<委員>

猿橋(理事・大学職員) 市川(理事・教員) 大野(理事・教員)
 山崎(理事・学生) 館内(学生委員・理3) 川原(大学リユース市協議会・歯3)
 福地(下川森林PJ・農4) 山田(環境マガジンサステコ・工4) 高橋(監事・経済4)
 <事務局> 野崎



●レジ袋削減運動推進委員会

●レジ袋削減運動推進委員会 開催状況

<出席状況>

第1回:10/12 18:00~20:00 会館店小会議室
(委員)伊藤・青木・宮本・溝口・清水・早川・加藤
(事務局)野崎

第2回:11/09 18:30~20:00 会館店休憩室
(委員)伊藤・宮本・溝口・清水・早川・加藤
(事務局)野崎

第3回:1/25 18:30~20:00 会館店休憩室
(委員)伊藤・青木・溝口・清水・早川・加藤
(事務局)野崎

第4回:5/08 18:30~20:00 会館店3Fホール
(委員)伊藤・青木・清水・早川
(事務局)野崎 (オブザーバー)購買店長(山田・森下・小助川・石橋)

活動)Myバッグの持参やレジ袋の再使用を促す取組
目標)レジ袋使用率10%台(19%以下:前年対比半分
程度の使用量/月)

北大生協 レジ袋使用状況

2006	06供給	06客数	06点数	06客単価	06点単価	06袋仕入枚数	06袋利用率
全部門全店	6,504,334,000	4,235,578	10,701,434	1,535.6	607.8	1,152,775	27.2%
会館店1F	495,565,000	329,848	879,490	1,502.4	563.5	212,100	64.3%
北部店	498,900,000	346,540	746,096	1,439.7	668.7	223,000	64.4%
工学部店	179,682,000	402,602	866,649	446.3	207.3	167,400	41.6%
中央店	144,381,000	292,182	664,288	494.1	217.3	191,600	65.6%
薬学部店	33,343,000	95,338	196,442	349.7	169.7	56,000	58.7%
保健学科店	25,256,000	59,351	127,884	425.5	197.5	19,500	32.9%
獣医学部店	28,188,000	68,845	152,079	409.4	185.4	32,100	46.6%
水産購買店SB	66,469,000	58,563	134,638	1,135.0	493.7	30,000	51.2%
<購買最寄店合計>	1,471,784,000	1,653,269	3,767,566	890.2	390.6	931,700	56.4%

※レジ袋の単独仕入がないため学寮店は工学部店に、ゲノム店は北部店に入っています。
※情報機器などが主体の外売店・キャリア店は集計から除いた(全部門合計には反映)

2007	07供給	07客数	07点数	07客単価	07点単価	07レジ袋仕入枚数	07レジ袋利用率	削減率
全部門全店	6,330,022,000	4,382,934	11,120,583	1,444.2	569.2	934,200	21.3%	19.0%
会館店1F	481,763,000	327,822	878,932	1,469.6	548.1	185,700	56.6%	12.4%
北部店	465,071,000	353,461	772,220	1,315.8	602.3	152,000	43.0%	31.8%
工学部店	180,459,000	406,118	873,023	444.4	206.7	154,500	38.0%	7.7%
中央店	150,733,000	312,853	699,875	481.8	215.4	175,000	55.9%	8.7%
薬学部店	33,606,000	97,895	194,891	343.3	172.4	44,300	45.3%	20.9%
保健学科店	35,892,000	76,367	162,431	469.9	221.0	23,300	30.5%	-19.5%
獣医学部店	26,635,000	71,749	151,868	371.2	175.4	26,200	36.5%	18.4%
水産購買店SB	69,579,000	59,630	168,447	1,166.8	413.1	10,000	16.8%	66.7%
<購買最寄店合計>	1,443,738,000	1,705,915	3,901,687	846.3	370.0	771,000	45.2%	17.2%

※レジ袋削減は2007年10月から実施

※情報機器などが主体の外売店・キャリア店は集計から除いた(全部門合計には反映)

●レジ袋削減運動

レジ袋は貴重な石油資源を使っていることから、この利用をみんなで抑える努力をして資源の有効利用を実践することや、レジ袋の製造過程と最後に燃やすときに排出されるCO2のことから地球温暖化と持続可能な社会について考えてもらいたい。と言うのがこの運動の本筋だととらえています。

ですから、レジ袋の使用量を抑えることは結果と考えております。そのため、有料化については最後の最後に行う事と考えております。

但し、2007年度の活動は店舗での接客オペレーションを中心に実施してきたため、資源の有効利用や地球温暖化と持続可能な社会についての啓蒙活動が不足していたのは大きな反省点です。



北部店	利用客数	小	中	大	弁当大	弁当小	レジ袋計	使用率
10月まで合計	47,496	4,332	4,362	2,055	684	602	12,035	25.3%
11月合計	30,200	3,371	2,964	945	251	184	7,715	25.5%
12月合計	24,857	2,724	2,204	812	160	108	6,008	24.2%
1月合計	27,833	2,837	2,224	902	192	134	6,289	22.8%
2月合計	16,245	1,681	1,381	738	140	87	4,027	24.8%
3月合計	9,250	848	728	513	68	74	2,231	24.1%
4月合計	37,113	2,168	1,944	1,377	144	227	5,858	15.8%

<とりくみ>

- ・ポスター、棚POP等を購買全店で準備
- ・2007年9月から試行スタート
- ・2007年10月18日から本格実施
- ・店内放送用録音テープの作成を決定したが未完成
- ・北部店でレジ袋枚数を毎日計数
- ・北部店に「先週のレジ袋使用率」掲示ボードを作成し運用中
- ・中央店でもレジ袋を毎日計数し掲示板設置を決定。

●10-2月の5ヶ月間で、前年に比べて160,700枚の削減

レジ袋一枚の製作時に30g・ゴミとして焼却されるときに30gのCO2が発生するとして、**約9.6t のCO2を削減した事になります。**

※ガソリンにして400L。月に1000km程度走行する(燃費が9km/l)乗用車約3台が1年間に消費する量に相当しています。

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介（情報公開） =

■ 過年度の環境報告の公開

環境活動の取り組みは以下のホームページで公開しております。
<http://www.hokudai.seikyou.ne.jp/soumu/kankyuu/index.html>



●2005年度「環境配慮へのとりくみ紹介」

現状の環境活動を簡単にまとめました。

・これをまとめることで、やれている事やれていない事、やらなければならない事がはっきりし、次のステップへ進めました。

●2006年度「環境配慮へのとりくみ紹介」

・数値で把握し実態を客観的に把握する事が少しできるようになりました。

下記の項目をPDF（約2.0MB）ファイルにてご紹介しております。

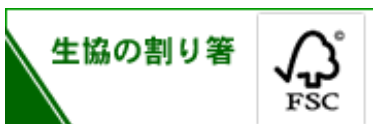
1. CONTENTS
2. 北大生協の事業概要
3. 専務理事あいさつ
4. 環境方針
5. 環境実施体制
2006年度 環境配慮へのとりくみ紹介
6. 情報公開
7. 環境教育
8. 省エネルギー<電気>
9. 省エネルギー<ガス>
10. 省資源<水・紙・包装資材>
11. 資源の循環利用<紙・ビン・缶・ペット>
12. 資源の循環利用<割箸>
13. 資源の循環利用<食堂廃油・他>
14. グリーン適合商品の優先供給
15. 排水の管理
16. 放置自転車対策
17. 燃えるごみの分別状況
18. 2006年度実施状況と課題

■ ホームページでの活動案内

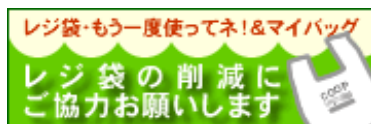
●ホームページでは以下のような活動も紹介しております。



本紙P19に掲載



本紙P15に掲載



本紙P7に掲載



本紙P16に掲載

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介（環境教育） =

■ 大学祭でのゴミナビゲーション



環境戦隊 ゴミナビジャー 登場！

生協学生組織委員がきれいな北大祭を守るゴミナビジャーに扮し、分別を守らずゴミを散らかす敵をやっつけるという寸劇をして、子どもから大人まで「ゴミの分別」を楽しく理解してもらえました。



●ゴミナビゲーションは「北大祭をきれいに楽しんでもらう」「ゴミナビを通してごみ問題を意識して欲しい」（ゴミナビ方針：学生組織委員会）と言うことを基本において…

- ①ゴミの分別を呼びかけるだけでなく、ゴミ捨てを楽しんでもらう
- ②ゴミ捨てを指南する自分たち（スタッフ・ゴミナビゲーター）も楽しむ
- ③北大祭実行委員会、特に榊原祭実行委員会との協力を図る
- ④ゴミナビゲーター自身が知識をしっかりとつづけることを意識して活動しました。

当日は北大祭に訪れた多くの学生・地域の人たちとスタッフが一緒に楽しみながらゴミの分別を学びました。ただ、回収業者の関係で、北大祭での分別が北大の通常の分別と一致していないことが反省点として挙がりました。

ゴミナビスタッフ：11名

ゴミナビゲーター：34名

ゴミナビ拠点：18条門前・教養棟中・はるにれ前

・工学部前（医学部より）・13条門入口メンスト沿い



■ きぼうの虹（教職員・院生向け機関紙）での情報提供

きぼうの虹 掲載一覧

教職員・大学院生用の生協機関紙は隔月発行しており、その中で「環境」についての生協の活動や先生方から寄せられた話題記事を掲載して組合員への情報提供や啓蒙活動に役立てております。

●2007年4月1日発行第309号

【生協のこれからを考える キーワードは「共生」】「南極を通しての環境問題」 低温研 宮本淳

●2007年6月1日 第310号

【環境特集】「不要自転車回収のとりくみ～リサイクル自転車136台を販売」

●2007年8月1日第311号

【環境特集】「使用済みトナー・インクカートリッジをベルマークに」

●2007年10月1日第312号

【生協のこれからを考えるキーワードは「共生」】「モズクガニと捨てられていた牛の奇形胎児の剥製」 獣医学研究科教授 藤田正一

【環境特集】北大生協は資源の有効利用推進の立場から「レジ袋削減」に取り組みます

●2008年12月1日 第313号

【環境特集】レジ袋削減運動 ご協力をお願いします

【生協のこれからを考える キーワードは「共生」】

「ちよいとイナセなエゾマツのはなしー北海道林業の再生を夢見て」 北方生物圏フィールド科学センター 夏目俊二

●2008年2月1日 第314号

【談話室】「環境配慮活動と生協経営と」 北大生協専務理事 柳田 章

【環境特集】フレッシュベルマークを集めて理科してもらおう ～環境科学院回収デー報告～

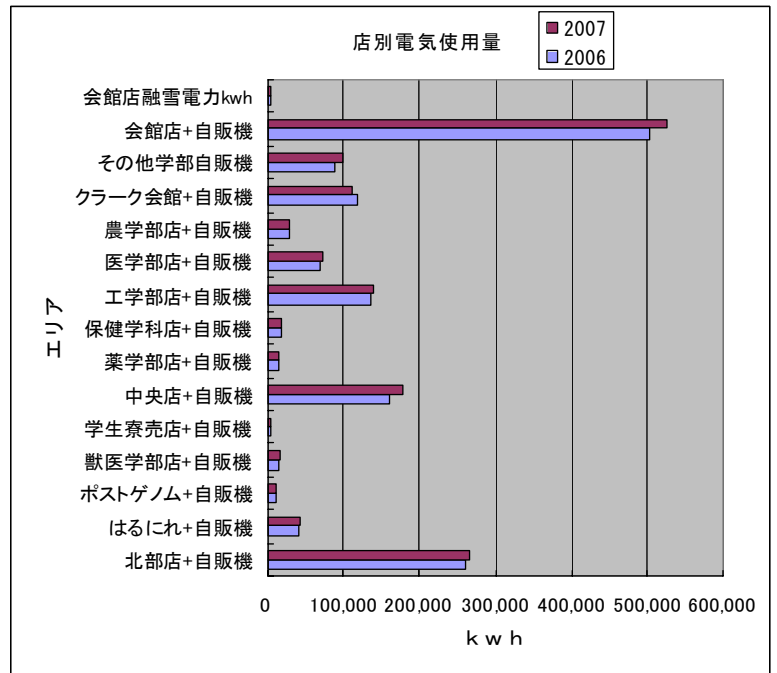
【環境特集】環境にやさしい商品 「食堂と同じ道産のFSC認証割箸」「MOTTAINAIバックに新種登場！」

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介 (省エネルギー) =

■ 電気使用量

※生協会館店以外の電気使用量は大学からの請求金額をもとに算出しています。

店別使用料	2,006	2,007	増減率
北部店+自販機	260,694	266,559	2.2%
はるにれ+自販機	40,903	42,578	4.1%
ポストゲノム+自販機	11,014	12,193	10.7%
獣医学部店+自販機	14,929	17,117	14.7%
学生寮売店+自販機	3,872	3,780	-2.4%
中央店+自販機	160,979	177,010	10.0%
薬学部店+自販機	15,289	14,607	-4.5%
保健学科店+自販機	19,313	18,103	-6.3%
工学部店+自販機	135,038	140,422	4.0%
医学部店+自販機	68,590	74,446	8.5%
農学部店+自販機	28,596	28,144	-1.6%
クラーク会館+自販機	119,218	110,831	-7.0%
その他学部自販機	87,711	98,761	12.6%
会館店+自販機	503,559	525,350	4.3%
会館店融雪電力kwh	4,478	4,351	-2.8%
総合計	1,474,183	1,534,253	4.1%



2007年度は前年に比べ全体では60,000Kwh増加しました。

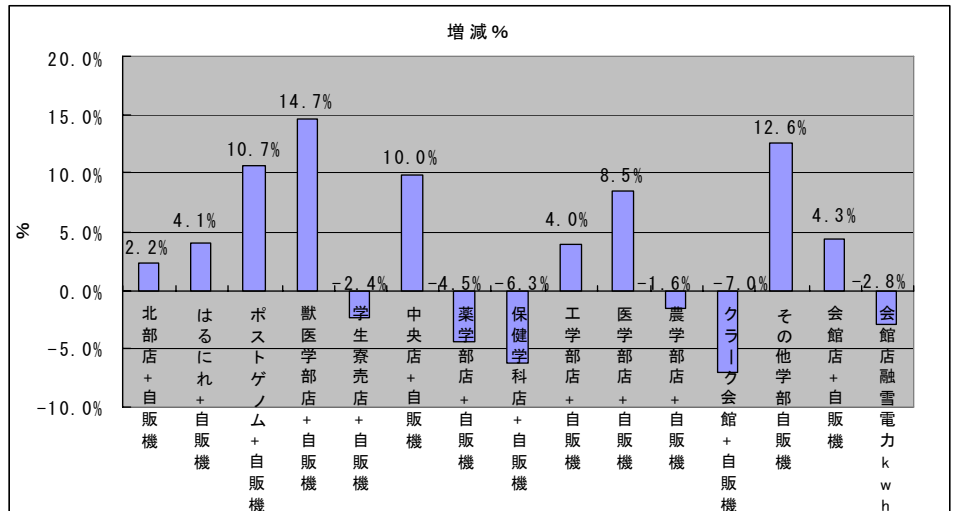
店舗別で見ると小さい店舗である学生寮・薬学部店・保健学科店・農学部店、及びクラーク店で減少しました。このうち、クラーク店・農学部店・薬学部店は学部の耐震工事に伴う閉店期間があったことによる減少です。

全店でCoolBizを実施しましたが、それに付随しての具体的な節電方法や取り決めが無く、とりくみの甘さを反省いたします。

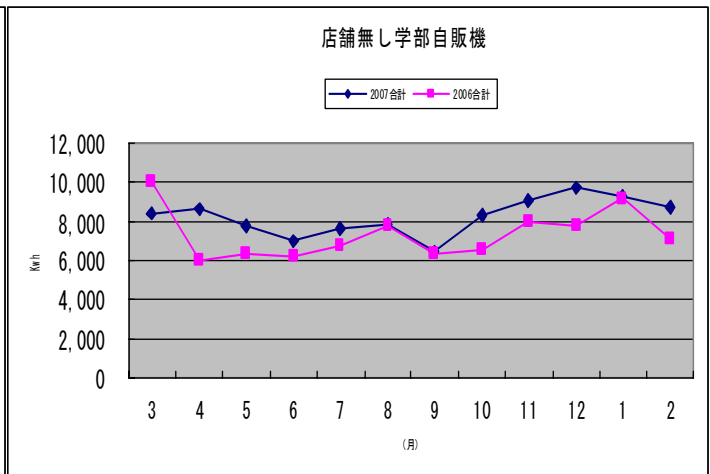
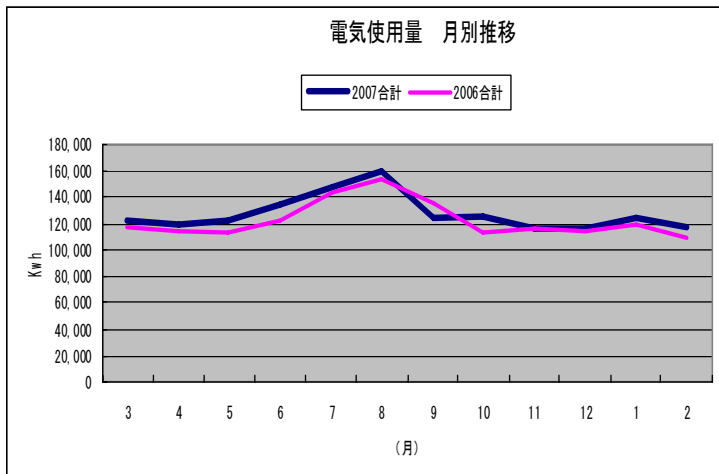
また、2007年度中に自動販売機の1/4を、従来機より省エネ性能が高いと言われるタイプに変更しましたが、実際は効果があつたとは言えない状況でした。

とりわけ、秋から冬場の電気消費量が増加しているようです。

2008年度は具体的な節電対策手法を確認し実施することが求められます。



2006年に比べて、60,070Kwh 使用量が増加しました。CO2に換算すると 22.11t の増加です。



● 全店でCool Bizの実施

CoolBiz実施期間:2007年6月20日～9月末日まで

北大生協は2006年に政府が提唱する地球温暖化防止「チーム・マイナス6%」のとりくみに参加表明しておりましたが、店舗への準備が間に合わず実施を見合わせておりました。

2007年度は、既に北海道大学でもこの運動へ参加し「クールビズ」を実施していること(実施開始時期は北大と合わせられませんでしたが)とから、具体的な削減目標も節電対策もないままでしたが「とにかくやってみよう」ということで全店で実施いたしました。

事務室と売場を別々に温度コントロールできるエアコンのある店舗がないので、チョコレートなどが溶けない温度維持を優先せざるを得ませんでした。

そのため「過度の冷房を慎みネクタイ無しの軽装」ということの実施にしかありませんでした。当然電気消費量を抑えるまでには至りませんでした。しかしながら「だらしなく思われる」「無意味だ」という当初の職員の声は「もうやめられない」「ネクタイ無しでも抵抗感はなくなった」という声に変わり、2008年度も実施は継続することになりました。

2008年には目標を持って取り組む必用があります。



● 生協会館店の電気使用量推移

会館店

【使用電力量】Kwh

使用月

年度	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	上期計	下期計	合計
2004	46,843	37,741	37,508	48,063	51,846	47,152	37,396	39,176	38,079	40,668	43,415	42,112	271,157	240,847	510,000
2005	50,087	35,962	32,533	42,571	44,694	49,298	41,504	39,243	37,485	39,722	43,409	40,261	257,151	241,626	496,771
2006	45,237	38,615	35,619	39,563	50,295	55,963	42,635	39,735	37,352	38,952	40,553	39,040	267,298	238,267	503,559
4-6平均	47,389	37,439	35,220	43,399	48,945	50,804	40,512	39,385	37,639	39,781	42,459	40,471	263,197	240,247	503,443
2007	47,514	38,837	37,193	45,512	49,779	55,328	45,338	41,725	42,094	39,502	41,409	41,119	276,170	251,187	525,350

平均との差 125 1,398 1,973 2,113 834 4,524 4,826 2,340 4,455 -279 -1,050 648 12,973 10,940 21,907
↑ クラーク工事による3F事務所化10下-11月

2006年に比べて温度湿度とも9月まで高かったのが特徴です。

●CoolBizを実施し過度の冷房を行わないように努めましたが、8-9月は気温は平年並みでも湿度が高い分エアコンの稼働率が高く、電気使用量が増えています。とりわけ8月前半は湿度80%以上の日が多くPCカンファレンスのITフェアーを開催したことも8月の電気使用量増加の要因となっています。

また、10月中旬から11月末までクラーク会館の耐震工事に伴い印刷情報・保険・アパート紹介の事務と印刷機の一部が会館店3Fに引っ越してきたため使用量が増大しています。

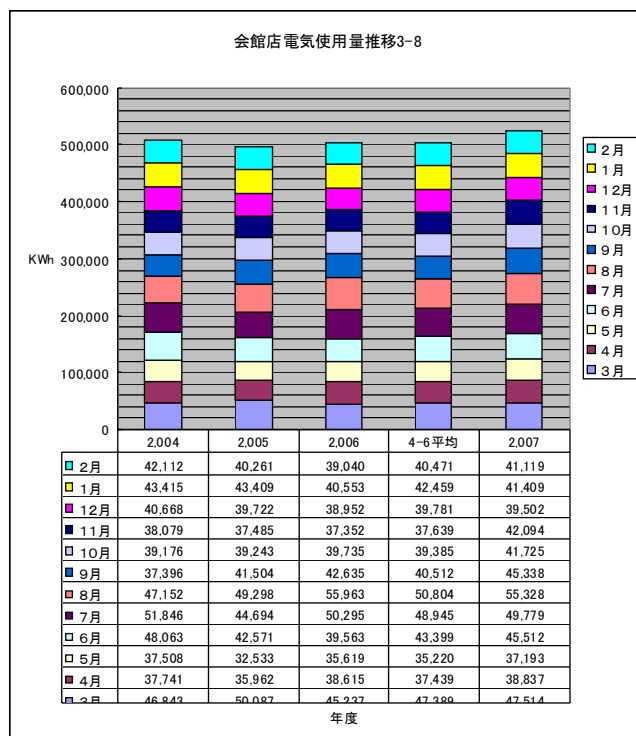
2006年に比べて、21,791Kwh 使用量が増加しました。
CO2に換算すると 8.02t の増加です。

真夏日 30℃以上						
	6月	7月	8月	9月	計	連続
2004	1	6	7	0	14	4
2005	2	1	5	1	9	3
2006	0	1	12	0	13	7
2007	0	1	8	1	10	5

湿度%	6月	7月	8月	9月	6-9平均
2004	64	75	70	68	69.25
2005	69	75	72	69	71.25
2006	75	71	72	65	70.75
2007	71	69	71	72	70.75

湿度80%以上	6月	7月	8月	9月	計
2004	3	9	4	2	18
2005	1	7	7	4	19
2006	13	6	2	9	30
2007	2	1	9	7	19

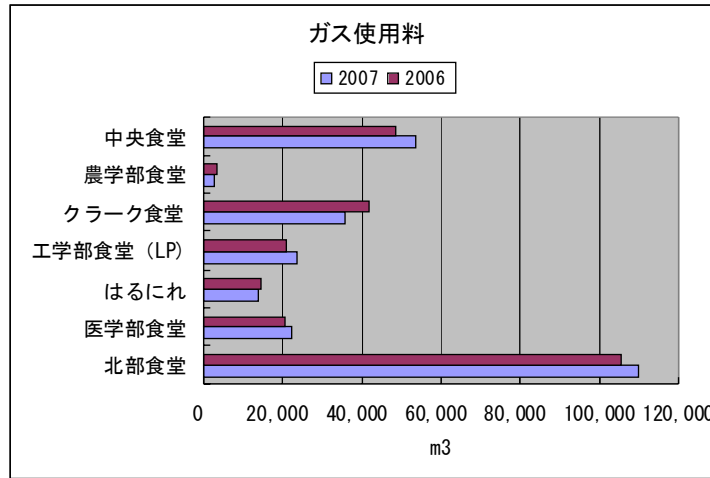
※札幌管区気象台提供データより



■ ガス使用量

ガスは店舗ごとに北海道ガス・北大・民間ガス会社から供給を受け、その用途も調理用・給湯用・暖房用とそれぞれに分かれています。

減少している店舗は移転工事に伴い休業していたところ。増加している店舗の中でも中央食堂・はるにれ・医学部店は客数の増加によるものと言えます。逆に北部食堂・工学部食堂は客数以上にガスの消費量が増えていますので、器具の点検や節約の対策が必要です。



店舗	用途	ガスの種類
北部食堂	調理	北海道ガス
	給湯	北海道ガス
	暖房	北大
医学部食堂	調理	北大
	給湯	北大
	暖房	北大
はるにれ	調理	北海道ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
工学部食堂	調理	LPガス
	給湯	北大
	暖房	北大
クラーク食堂	調理	北海道ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
農学部食堂	調理	北海道ガス
	給湯	北大
	暖房	北大
中央食堂	調理	北海道ガス
	給湯	北大
	暖房	北大

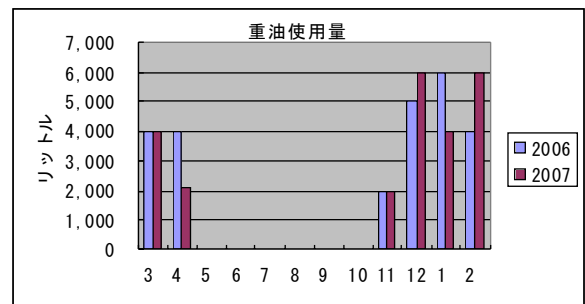
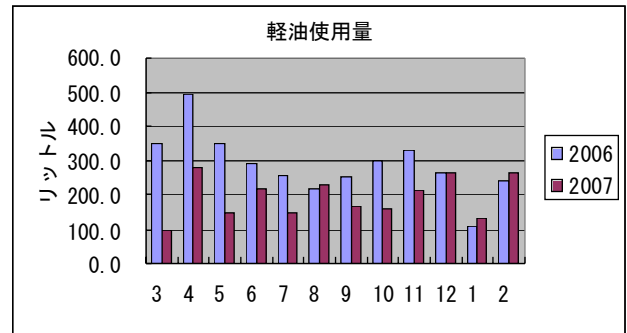
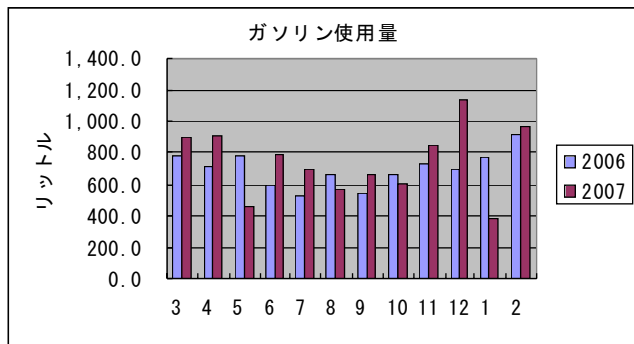
ガス使用量	2007	2006	増減率	容数伸長率	コメント
北部食堂	110,179	105,598	104.3%	102.4%	給湯用のガス使用料が増えました
医学部食堂	22,114	20,642	107.1%	130.0%	2007年に新施設本格稼働のため増加しました
はるにれ	13,710	14,169	96.8%	108.4%	客数増加の一方ガスは節約できました
工学部食堂 (LP)	23,469	20,729	113.2%	95.5%	客数が減る一方ガスが大幅に増加しています
クラーク食堂	35,682	41,844	85.3%	84.2%	新食堂開設前に一ヶ月半閉店のため
農学部食堂	2,594	3,676	70.6%	87.5%	2006年11月から新店営業まで1年間閉店のため
中央食堂	53,372	48,848	109.3%	114.2%	客数の大幅な増加に伴うガスの増加です
(m3)	261,121	255,506	102.2%		

2006年に比べて、5,615m3 使用量が増えました。
CO2に換算すると 11.79t の増加です。

■ ガソリン・軽油・重油使用量

ガソリンは32台の営業者(軽自動車)で使われて微増、軽油はワゴン車一台が減った分減少しています。重油は会館店の暖房用ボイラーに使われています。4月の例年のない陽気のため減少しました。

	2006	2007	増加率	2006 車両 台数	2007 車両 台数
ガソリン	8,411.2	8,972.4	106.7%	32	32
軽油	3,442.8	2,314.2	67.2%	6	5
重油	25,000	24,084	96.3%	ボイラー	ボイラー



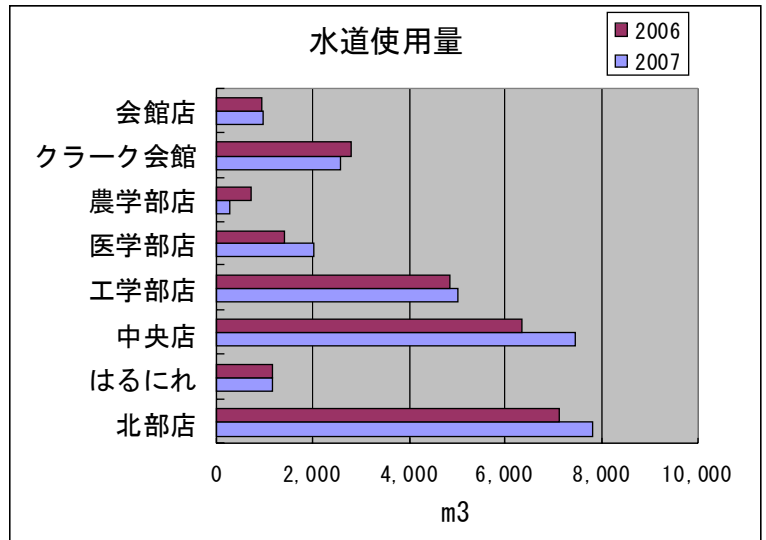
2006年に比べて、ガソリン+561L, 軽油△ 1,128.6L, 重油△916Lと合計では使用量が削減されました。
CO2に換算するとあわせて 4.0t の削減です。

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介 (省資源) =

■ 上水道使用量

クラーク店・農学部店は閉店期間があったため減少しています。医学部店・中央店・北部店は客数の増加に伴い水道使用量が増加しています。工学部店は客数が減少しているのに反して増加しています。原因究明と対策が必要です。

	2006	2007	増加率
北部店	7106	7,815	110.0%
はるにれ	1170	1,185	101.3%
中央店	6360	7,452	117.2%
工学部店	4869	5,034	103.4%
医学部店	1416	2,032	143.5%
農学部店	745	294	39.5%
クラーク会館	2778	2,596	93.4%
会館店	913	960	105.1%
合計	25,357	27,368	107.9%



2006年に比べて、2,011m³ 使用量が増加しました。
CO₂に換算すると 1.16t の増加です。

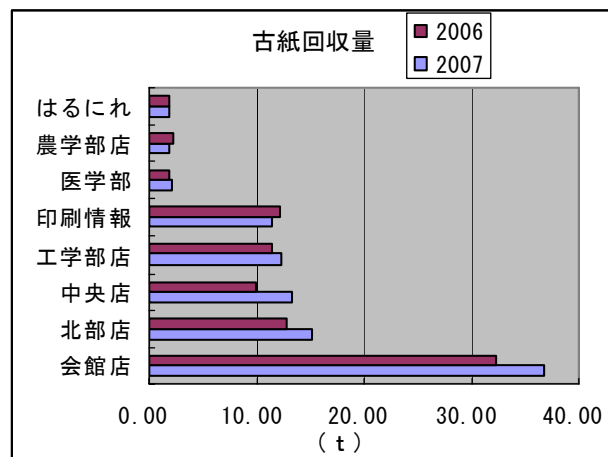
■ 紙製品の節約

- ドキュメント印刷用の上質紙・コピー用紙などの使用量については量的な把握が本年もできておりません。
- 会議資料の両面印刷を徹底しております。
- 内部文書・資料送付などは古封筒を利用しております。
- インクジェットプリンタへは裏紙を使用しています。

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介 (資源の循環利用) =

■ 紙の再資源化

ミスプリントや不用になった書類は事務所ごとに回収BOXを用意したり、学内3カ所の回収BOXに組合員さんに入れてもらうようにし、確実に再資源化できるようにしています。



Kg	2005	2006	2007
1回目	177	188	164
2回目	104	123	148
	281	311	312

枚数	2005	2006	2007
1回目	5,360	5,700	4,970
2回目	3,150	3,720	4,490
	8,510	9,420	9,460

■ 牛乳パックの回収

学内3カ所(会館店・中央店・北部店)にある回収BOXに組合員が入れていってくれます。もう数十年続いているとりくみです。

回収量は昨年とほぼ変わりのない数字となっています。

■ 使用済みカートリッジの回収

本学女性研究者支援室(室長:有賀早苗副理事)が「ベルマークを集めて理科の実験をしてもらいましょう!」活動(高校などへの理科実験の出前や器具の提供)の一環として「使用済みインク/トナーカートリッジ回収」を、2007年9月より行なっています。エプソンとキャノンが使用済みカートリッジのリサイクルを促進するためベルマークに協賛し、回収送付した団体にベルマーク点数を付与する制度を利用したものです。国立総合大学で初めての活動は、朝日新聞全国版でも紹介されるほどでした。

学内教職員・院生の方々の協力を頂き、半年で4600個の回収となっています。リサイクルとベルマークを兼ねたこの活動を、北大生協は回収・保管・分別・発送全般に渡って協力しております。

回収は学内4箇所に置かれた回収BOX、電話連絡を受けての訪問の他、2008年2月には環境科学院でピラ告知の上教職員に持参いただく機会を設けていただけようになりました。

順位	P T A 名称	所在地	回収点数
①	栗山小	栗山町	180,611
②	栄西小	札幌市	167,425
③	大森東中	江別市	107,905
④	旭川東光幼稚園	旭川市	100,864
⑤	上江別小	江別市	95,371
⑥	本町小	札幌市	83,385
⑦	いずみ野小	江別市	77,818
⑧	稚内東小	稚内市	74,584
⑨	元町北小	札幌市	71,820
⑩	札幌北斗高	〃	67,238
⑪	柏小	帯広市	66,731
⑫	共栄小	札幌市	66,712
⑬	新川小	〃	65,355
⑭	富川小	日高町	64,764
⑮	神居東小	旭川市	62,412
⑯	北海道大学女性研究者支援室	札幌市	61,795
⑰	白老さくら幼稚園	白老町	61,592
⑱	桜木小	千歳市	59,659
⑳	北海道療育園	旭川市	59,275
㉑	緑丘小	札幌市	58,587

年	月	Canon		EPSON		合計	
		本数	点数	本数	点数	本数	点数
2007	9	26	1,300	48	2,400	74	3,700
	10	187	8,350	635	4,750	802	13,100
	11	764	8,050	388	8,150	1,152	16,200
	12	158	7,900	133	6,850	291	14,550
2008	1	863	7,150	659	10,450	1,522	17,600
	2	143	3,235	574	6,245	717	9,480
	3	0	0	106	5,300	106	5,300
合計		2,121	35,985	2,543	43,945	4,664	79,930



環境科学院での回収風景



●回収後、北部厚生センター裏の倉庫に保管し、一月に一度、分別発送作業を行なっております。

そのように発送された実績は半年で4664個(ベルマーク対象数のみ)となり、これは2007年度、北海道内で16位の量となっています。2008年度は1位が狙えそうです。

■ 産業廃棄物の回収量

●生協会館店、クラブ会館からでる産業廃棄物は商品購入に関わり不用になった家電家具・PCや梱包資材に多く使われている発泡スチロール等が多く、ある程度たまってから回収業者SO社に回収してもらっています。

また、その他食堂のある店舗は毎月定期的に回収業者SA社に各店を回って回収してもらっています。ここでは「タレ」などの調味料等の廃プラスチックボトルが中心になっています。

2008年は調味料ボトルもプラスチックからペットボトルの物に代わってきているので、産業廃棄物の量も抑えられそうです。

回収業者SA	単位	工学部店	北部店	中央・農学部	医学部店	はるにれ
産廃混合	m ³	0.5	3.2	3.6	0.0	0.1
廃プラ混合廃棄物	kg	0.0	150.0	40.0	0.0	0.0
廃プラスチック類	m ³	3.3	14.2	6.1	0.2	0.0
金属くず	m ³	0.0	7.0	7.0	0.0	0.0
廃蛍光管	本	12.0	65.0	46.0	0.0	0.0
廃プラスチック類・発泡スチロール	m ³	0.0	1.3	2.0	0.5	0.2
廃乾電池	kg	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラス、陶磁器くず	m ³	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
金属混合廃棄物	kg	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0

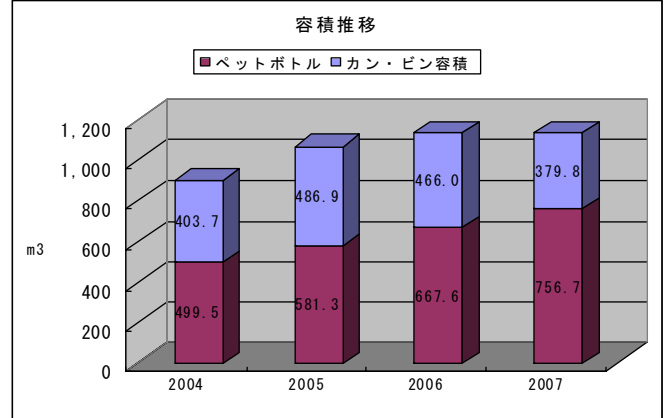
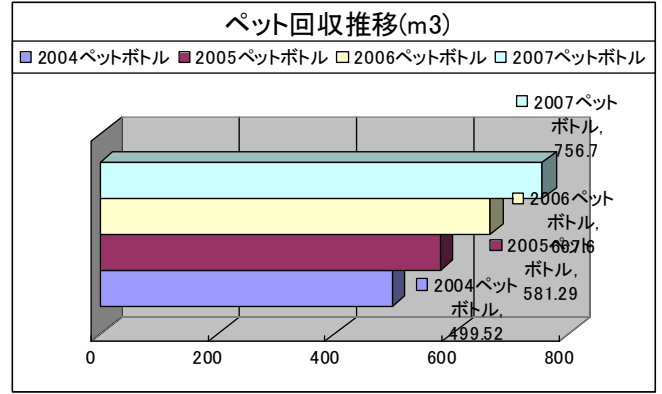
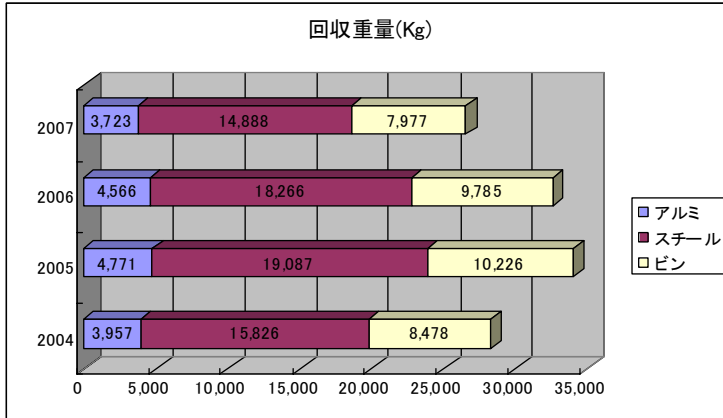
回収業者SO	合計	単位
品名	数量	
発泡スチロール	50.5	m ³
可燃物	0.5	m ³
不燃物	13	m ³
PCモニター	26	台
PC本体	10	台
鉄物	0	m ³
コピー機(小)	7	台
冷蔵庫	19	台
タイヤ	16	本
テレビ	20	台
タイヤ(ホイールなし)	0	本
業務用冷蔵ショーケース	0	台
電子レンジ	8	台
レーザープリンター	6	台
ノートPC	6	台
木屑	3	m ³
ソファ	1	m ³
ファックス	1	台
ワープロ	2	台
POSレジ	4	台
洗濯機	1	台
カラーレーザー	1	台

■ビン・缶・ペットの再資源化

北大生協はリサイクル業者に業務委託して札幌キャンパス内の自動販売機に備えてある空き缶入れからビン・缶・ペットボトルを回収してもらい再資源化を図っております。

ここ数年の傾向ですが、自動販売機におけるペットボトル商品の利用が顕著に増えています。

回収しているビン・缶・ペットボトルの容積はここ3年間でそれほど増加していませんが、右下のグラフのようにビン・缶の容積が年々減少する一方ペットボトルの回収量が増えていることがわかります。



■国産間伐材「割箸」の利用

●北大生協の食堂で使われている割り箸は全て持続可能な森林管理の行われている、北海道下川町のFSC認証林から産出された間伐材でつくられています。

食堂では洗浄され何度も使われるカーボン箸とこのFSC認証割り箸の両方が用意されており、たとえば「麺には割り箸」「ライスのはカーボン」と自由に選択できるようになっています。どちらが環境にやさしいかという議論もありますが「利用しやすく」「安心安全」を双方に求めた形が現在の組み合わせとなっています。材質も良く握り具合も良いものですから年々利用が増えているのが現在の悩みです。

割り箸は利用されたあと「資源化ごみ」として固形燃料にRecycleされます。



カーボン箸と割り箸



下川町FSC認証林(白樺)

北大生協は
森林認証割り箸
を使用しております。

環境、経済、社会に配慮した森林管理を行っている下川町の森林から生産された木材(白樺)を原料とした割り箸です。森林認証材を使うことができます。

漂白剤、防腐剤は一切使用していません。さらに型残材100%再利用なので、安心、安全で環境にやさしい箸です。

地球のごとも、みんなのごとも、ちゃんと考えて作りました。

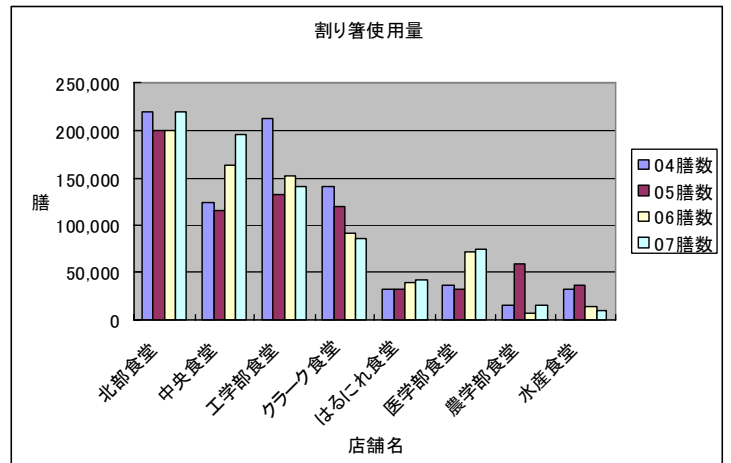
製造元: 下川製箸株式会社
北海道下川町下川町南町146番地
TEL 01655(4)2578 FAX 01655(4)3078
URL <http://www16.plala.or.jp/kokusamaribasi/>



★同じ割り箸は50膳入の袋箸として購買店舗でも販売しています。

●FSCについては以下を参照下さい
<日本森林管理協議会>
<http://www.forsta.or.jp/index.htm>

	04膳数	05膳数	06膳数	07膳数
北部食堂	220,000	200,000	200,000	220,000
中央食堂	124,000	116,000	163,000	195,000
工学部食堂	212,000	132,000	152,000	140,000
クラーク食堂	140,000	120,000	92,000	85,000
はるにれ食堂	32,000	32,000	39,000	42,000
医学部食堂	36,000	32,000	72,000	75,000
農学部食堂	16,000	60,000	8,000	15,000
水産食堂	32,000	36,000	14,000	10,000
(小計)	812,000	728,000	732,000	770,000



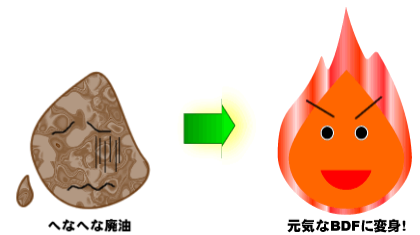
■ 食堂廃油のBDF化

BDF用食堂廃油提供量(リットル)

2007回収量	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	T
クラーク館店	144	117	108	198	126	108	145	104	38	89	56	95	1,328
農学部店	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	35	40	129
中央店	126	90	182	180	117	90	175	127	81	194	145	163	1,670
工学部店	108	63	45	72	36	63	63	22	22	25	40	37	596
北部店	234	180	162	360	279	171	262	180	192	204	199	136	2,559
食堂 はるにれ	0	36	45	72	36	0	0	20	50	49	12	45	365
医学部店	41	36	63	72	72	72	93	24	84	46	64	66	733
合計	653	522	605	954	666	504	738	477	467	661	551	582	7,380

●食堂で使われる揚げ物用の油(植物油)は全て回収し、軽油の代替燃料であるBDF(Bio Diesel Fuel)の原料としています。回収した量は7,380リットルになりました。作られたBDFは北海道庁などの公用車に利用されています。

2007年後期からは3店舗(会館店・中央店・北部店)に組合員向けの「廃油回収BOX」を設置しましたが、こちらはまだ利用が少ないようです。



■ 組合員の環境活動への支援

●大学リユース市協議会への支援



今年で4回目を迎えるリユースフェアに昨年に引き続き、会場の調整、運搬車輛の貸出などで支援を行いました。

＜2007年度活動の報告＞大学リユース市協議会 中野達之(北大農学部2年)
3月15日、2007年度1回目のリユースフェアが終了し、回収された38点の家具・家電の内、32点が抽選の上、北海道大学の新入生や在校生に提供されることとなりました。また、3月19日の最後の回収日には72点の家具・家電の回収があり、これらのほとんどが3月23日、24日の第2回リユースフェアで新入生の方々に提供されました。

誰からも応募申込のなかった家具数点については、4月19日に行われる札幌市内大学の合同新歓イベントにて、リユース活動の紹介のために利用されました。

- 今回のリユースフェアの特徴としては、以下のような点が挙げられます。
- ① 初めて北大内で開催ができ、北大の新入生や在学学生を主たる対象とできたこと。
 - ② 現物を展示せず、写真を添付したカタログポスターのみで提供したこと。
 - ③ 先着順ではなく、全品を抽選で提供したこと。
 - ④ インターネット上のブログでも開催時期に合わせてカタログ展示と応募受付を行ったこと。

前回までは北大から遠い施設でリユースフェアを開催していたため、会場に訪れた方のほとんどが学生ではなく市民でしたが、今回はクラーク会館で開催したことにより「卒業生から新入生へ」という提供の流れを実現することができました。

その一方で、比較的広いスペースを利用できた前回までとは異なり、今回は現物を展示できず、会場を訪れた方からは購入に不安な声が多く聞かれました。

2008年度は学内の施設をリユース施設として利用できるようなお話があるようですので、大いに期待し活動の継続に向けて一層頑張りたいと思います。



= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介 (グリーン適合商品の優先供給) =



適合品にはこれが付きます



- ・大学生協で作っている商品カタログにはグリーン適合商品を優先的に取り上げております。(カタログショッピング・COOP文具カタログ・研究室ガイドなど)
 - ・大学のグリーン優先購入のお手伝いになるように適合商品には「グリーン購入法適合」マークを付けております。
 - ・文具においては棚札やレシートに適合商品マークを表示させています。
- ※店頭での表示をもっと分かり易く表現するためにその方法を議論してきましたが、残念ながら2007年度も具体的には進まず、2008年度の課題となりました。

北海道大学生協同組合
UNIV COOP 生協会館店1階
毎日のご利用ありがとうございます。

2006年 6月14日 (水) 11:45 110101
NO:01-6794 担:55 カウンター
半期に1度のハッピーキャンペーン開催!
人気商品がお手頃価格で・・・!
期間6/1~6/30

自動車学校入校キャンペーン
今お申し込みすると5000円もお得!
期間: 6/19~6/30
13 @RF-A4P ¥330
13 *F-867-5黄 ¥320
***** 無類レシート *****



商品名の前に「@」がついている商品は適合品
(13 @RF-A4P)
「*」がついているのが不適合品
(13 *F-867-5黄)

= 2007年度 環境配慮へのとりくみ紹介 (排水の管理) =

■ グリストラップ清掃

グリストラップの容積の大きさに応じて年に数回専門業者による槽と送水管の高圧洗浄及び吸引による汚泥・汚水の除去を行っています。

吸引した汚泥は産業廃棄物として適正に処分しています。

専門業者での定期除去の他、職員による1-2日ごとの除去も行っています。

2007年度 グリストラップ等清掃実施状況													特記事項	
実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		回数
<グリストラップ清掃>														
北部食堂		○						○					2	
はるにれ食堂		○						○					2	
中央食堂		○		○				○		○			4	2008年度は回数を減らします
工学部食堂		○			○			○		○			4	
クラーク食堂														07.11にグリストラップ新設
農学部食堂														07.11新店オープン
医学部食堂		○						○					2	
<配水管清掃>														
中央食堂		○			×			×		●	×		1	※中央食堂配水管詰まりのため1-2Fの清掃実施¥360,000
工学部食堂		○			×			×		●	×		1	※工学部・排水ピット詰まり ¥45000
<雑排水槽清掃>														
工学部食堂		○						×					1	
●は追加実施 ×は予定していたが中止 ○は閉店 □はオープン分解装置導入														

■ グリストラップ オゾン分解装置の設置

厨房内に排水のグリストラップ槽がある厨房が多く、蓋を開けると強烈な臭いが発生し厨房内だけではなく食堂ホールまで臭いがこもります。

これは排水に含まれる油分が雑菌により腐敗することが原因となっております。

オゾン分解装置はグリストラップ槽内にオゾンを出し、この雑菌と油分を分解する事によって臭いも大幅に減少させ、併せて排水もある程度浄化されます。

北大生協は「グリスの除去をこまめにできるように」「排水を少しでも浄化させられるように」この装置を4店舗に導入しました。

- ・2007年5月 工学部食堂へ導入
- ・2007年7月 中央食堂へ導入
- ・2008年3月 5-7号食堂・農学部食堂へ導入

装置の稼働時間は閉店後から翌朝までの流れのない時間で行っています。

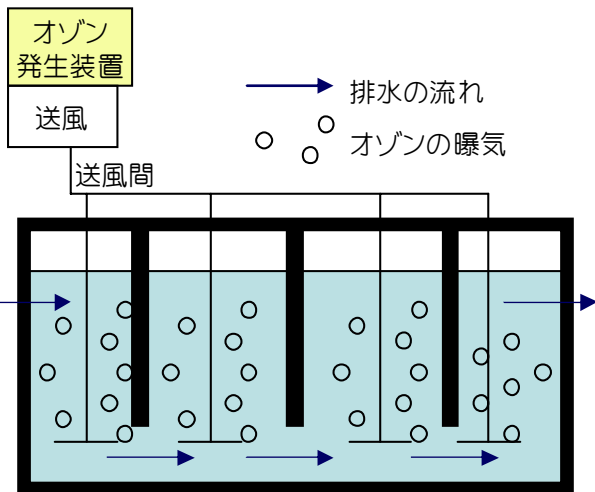
設置前は槽内の水の色も濁り、グリスが大量に浮遊していましたが、設置後、水は乳白色の半透明となり臭いは殆どしないくらいになりました。

現在、グリスの除去を1-2日おきに行っています。



(上)オゾン分解装置稼働前
(下)一週間稼働後

※写真の向きが逆ですが、同じグリストラップ槽です(工学部店)



■ 水質検査の実施

昨年排水の水質検査をはじめて実施し、油分であるノルマルヘキサンがオーバーしていました。本来2007年度も実施し、点検と対策が求められますが費用の関係で実施ができませんでした。2008年度は予算化して実施することになっております。

= 2006年度 環境配慮へのとりくみ紹介（放置自転車対策） =

■不要自転車の回収～リサイクル自転車販売

学内の放置自転車の多くが卒業時に放置されています。これを防ぐために卒業生から無償で不用になった自転車をいただき、安全に乗れるように整備をして販売するとりくみです。学生からだけではなく、大学部局から盗難届確認済の放置された自転車150台も提供いただき、合計で391台となり2008年5月に300台のリサイクル自転車として安価にて販売することができました。

北大内で回収され販売したリサイクル自転車には写真のようなシールが貼られます。

このとりくみで、学生さんからいただいた241台が放置自転車になることを未然に防げた事になります。



不要自転車回収実績														
2006	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	T	
組合員									12	10	1	8	55	86
施設部									50	11				61
合計	0	0	0	0	0	0	0	62	21	1	8	55	147	
2007	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	T	
学生	32	13	11	9	10	4	19	19	10	1	8	105	241	
施設部								37					37	
図書館			72										72	
情報基盤										8			8	
歯学部									33				33	
大学部局計	0	0	72	0	0	0	0	37	33	8	0	0	150	
合計	32	13	83	9	10	4	19	56	43	9	8	105	391	



300台のRecycle自転車は三日間で完売しました。



●回収した自転車には「Recycle」自転車であることが分かるように専用のシールを貼り付けます。

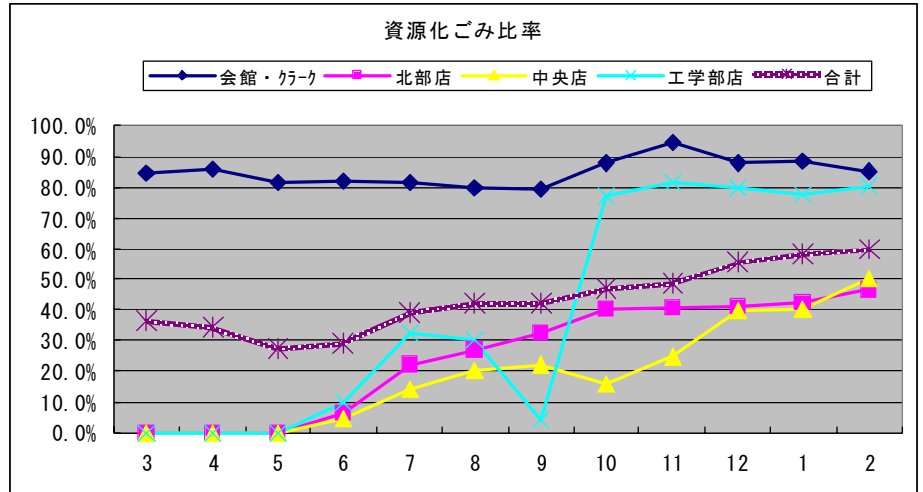
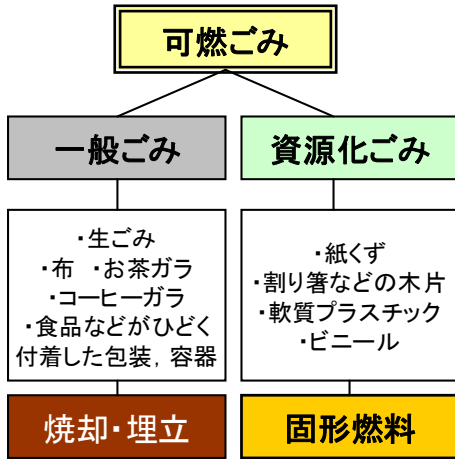
これで、このシールが貼ってある自転車は「北大で回収された」と言うことが販売段階まで分かります。



●組合員や大学から無償提供いただいた自転車は、フレームやブレーキ・リム・タイヤ・チューブ・ギヤなど安全に使えるものだけを使いカゴなどはできるだけ新しい物にしてRecycle自転車とします。

= 燃えるごみの分別状況 =

■ 資源化ごみ比率向上のとりくみ



札幌市の場合、事業所系のゴミ区分として「資源化ごみ」と言うのがあります。空き缶やペットボトルなどに代表される(素材にリサイクルされる)「資源ごみ」とは異なります。

紙くず・木片・軟質プラスチック(ビニール)を熱と圧力で固めて【固形燃料RDF】とするものです。

北大と北大生協はこのゴミ分別回収区分を採用し、ゴミの有効利用(Recycle)に努めております。

生協から出されるごみは「生ごみ」とこの「資源化ごみ」のものとなる物が殆どで、それ以外は「布」と「資源ごみ」「産業廃棄物」となります。

生協は2006年秋まで「可燃ごみ」として殆ど燃やしていましたが、この新しいゴミ区分に契約変更し分別に努めているところです。

	2006	2007	伸長率
一般ごみ	862	645	74.8%
資源化ごみ	192	497	259.3%
可燃ごみ計	1,054	1,142	108.4%
資源化ごみ比	18.2%	43.5%	

区分	処理料/m3
一般ごみ	¥4,350
資源化ごみ	¥3,750

ごみの分別は思ったより難航しております。

会館店・クーク店は2006年から先行して実施してきましたが、その他の食堂を中心とした店舗では紙くず・木片・軟質プラスチック(ビニール)を他の物と混ぜないようにする事がなかなか大変です。

現在の厨房は加工品、半加工品を食材加工センターなどから受取り、最終調理だけをする料理が増えていきます。そのため、下ごしらえした半加工品の包装にはソースや調味料などが付着しておりこれを濯いで「資源化ごみ」とする事がなかなか定着しませんでした。

しかし、食堂スタッフのがんばりで「資源化ごみ」への分別率が毎月向上して全体でも60%までに達しました。

資源化ごみの比率が上がることで、ごみの処分費用も排出量増加の割には抑えることができました。

店舗名	処理費用				客数合計		
	2007	2006	差異	伸長率	2007	2006	伸長率
会館・クーク	1,568,444	1,852,929	-284,485	84.6%	675,249	723,608	93.3%
医学部店	274,046	222,786	51,260	123.0%	231,229	177,934	130.0%
はるにれ	237,322	172,054	65,268	137.9%	150,635	138,903	108.4%
北都店	1,040,433	930,104	110,329	111.9%	1,233,657	1,213,823	101.6%
中央店	1,223,187	1,021,763	201,424	119.7%	774,264	696,351	111.2%
工学部店	516,527	585,409	-68,882	88.2%	699,698	710,083	98.5%
農学部店	50,605	73,092	-22,487	69.2%	115,564	132,049	87.5%
合計	4,910,564	4,858,137	52,427	101.1%	3,880,296	3,792,751	102.3%



資源化ごみでつくられる<固形燃料 RDF>

財団法人 札幌市環境事業公社

篠路清掃工場敷地内に資源化工場として燃料化工場とチップ化工場がある。

この燃料化工場は事業所系のゴミを使用。木くず、紙くず、軟質プラスチックの3つのラインを利用。それぞれにごみを粉碎してそれぞれ約40%、50%、10%の割合で混ぜて固形化している。固形燃料は思ったより大きくて直径40ミリ、長さ300-400ミリ。

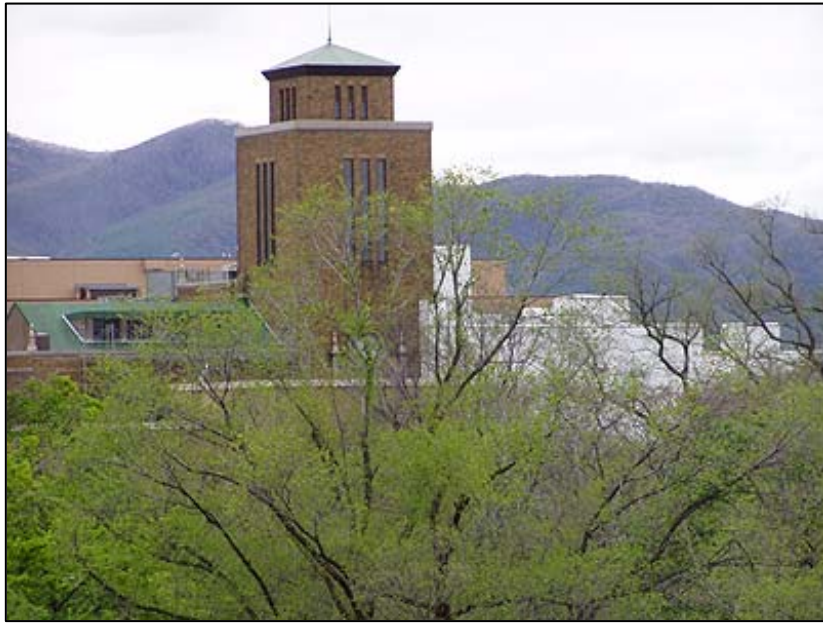
2007年度の環境目標と実施状況					
NO	環境方針	環境側面	環境目的	2007年度への課題 実施目標	2007年度 実施状況
3	社会への貢献	情報公開	地域社会への情報公開	・2006年度報告書を早期にまとめ、2007年度の活動予定も公開します。	「環境配慮へのとりくみ紹介」は総代会には間に合いませんでしたが、6月下旬に発行でき、関連するホームページなどの整備も出来ました。
			環境活動の継続	・大学の環境負荷低減のとりくみに積極的に参画し、協力関係をより一層強めます。 ・第2回北海道大学ステーキホールダーミーティングへの出席の要請があれば積極的に参加いたします。	第2回北海道大学ステーキホールダーミーティングへ出席させていただきました、その後も施設部や他部局と調整し協力関係を築いています。
5	社会への貢献	環境教育・研究	環境配慮への啓発	・大学祭でのごみナビゲーションを継続実施します。 ・エコツアーの開催を追求します。 ・夏祭りでのごみ分別回収を実施します。 ・きぼうの虹等の機関紙を中心に環境を考える学習活動をとりくみます。	・大学祭での「ゴミナビゲーション」は実施しました。 ・夏祭りではごみの分別を意識した活動にはなりませんでしたが、きぼうの虹には10月12月「レジ袋」2月「ベルマーク/環境にやさしい商品」4月「リサイクルコーナー」を掲載 ・Letterにも「レジ袋削減」が掲載されました。
6			エネルギー	エネルギー消費量を抑える	・エネルギー使用量を集計します。 ・過分な冷暖房に注意し、エネルギー消費量を抑える努力をします。
7	環境負荷の低減	省資源	紙・水・包装資材の節約	・包装資材(レジ袋など)の減量について組合員討議を準備します。	・6月理事会で試行と準備を決定し7月9月の総代会議で討議。9月理事会で実施を決定。 ・9/18から試験展開。10月から全店実施。 ・5ヶ月間で約20万枚削減。
9			資源利用	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の発生を抑制。リユース・リサイクルを促進 循環型林業への協力	・中央店、工学部店、北部店にあるごみ庫を新增設し、ごみの分別回収契約を結べる状態にします。(資源化ごみの回収契約) ・学生の環境活動を応援します。
11	環境負荷の低減	グリーン製品の優先供給	グリーン適合製品の優先供給で環境への配慮	・グリーン適合商品の購入がしやすくなるように店頭表示を工夫いたします。	・今年も出来ませんでした。
13			管理	水の浄化を促進(食堂部門)	・グリストラップ定期清掃回数を稼働率に合わせて増やします。 ・水質検査結果で基準値を超える店舗について、清掃の強化と共に水質検査も適時実施し問題点の抽出と対策を試行いたします。
14	環境負荷の低減	放置自転車の存在	放置自転車を削減し、効果的な自転車管理体制を構築	・2006年11月から2007年3月回収した不要自転車を整備し、2007年5月の中古自転車販売会で136台完売しました。 ・不要自転車の回収は年間通じて行います。 ・放置自転車への対策も大学と協力して取り組みます。	・2008年3月の組合員からの回収は105台。年間を通して241台となりました。 ・図書館、情報基盤センター、歯学部からも提供を受けることになり、年間150台。 ・合計391台の回収となり、春には300台を販売予定。

※NOは、「北海道大学2006年度の活動目標」のNOに符合しています。

NO	環境方針	環境側面	環境目的	2008年度への課題
3	社会への貢献	情報公開	地域社会への情報公開	●年一回の報告書の公開だけでなく、実施状況などを定期的(半期又は四半期に一度)に公開していく事も検討課題です。
		情報公開	環境活動の継続	●大学施設部との課題の調整や報告を継続すると共に、学務部と「学生が行う環境活動への支援」についても、活動の報告と併せて行う必要があります。
5	社会への貢献	環境教育・研究	環境配慮への啓発	●機関紙だけの啓発活動にとどまらず、組合員の利用の場面(店舗)でも環境について考えることができるような売り場作りについて検討する事が求められます。 ●大学祭でのゴミナビでは分別や処分について「大学や生協のゴミ分別」と「札幌市の一般家庭での分別の違いも学べるようにし、夏祭りや総代会議(の弁当)でもゴミナビが生かされるようにする必要があるとあります。
6	環境負荷の低減	省エネ	エネルギー消費を抑える	●具体的な削減目標とそのための方法を「削減手順書」としてをつくり実施することが必要です。
7		省資源	紙・水・包装資材の節約	●レジ袋削減運動をより一層強めるため、北本店以外の店舗でも枚数把握ができるようになる必要があります。 ●会議や報告書・コピーなどに使われる紙の枚数把握をし、実態を把握することから紙の削減目標を具体的に持つことが必要です。 ●水の使用状況について無駄がないか状況の点検が必要です。
9		資源利用	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の発生を抑制、リユース・リサイクルを促進 循環型林業への協力	●新たに「食品ごみ」の分別とその肥料化がスタートします。分別と回収サイクルに応じたごみ庫の再編成が必要です。 ●食品ごみの分別と同時に資源化ごみの分別も進めながら、ゴミの再利用比率を移送向上させましょう。 ●学生のリユース活動の応援を強めるとともに、学内でのリユースフェア開催に向けての準備が必要です。
11		グリーン購入の優先供給	グリーン適合製品の優先供給で環境への配慮	●大学のグリーン購入に促されるように、店頭での適合品案内や適合品の比率向上に努める必要があります。
13		廃水の管理	廃水の浄化を促進(食堂部門)	●こまめなグリスの除去を継続して実施しましょう。 ●定期的な水質検査の実施が求められます。
14	放置自転車の存在	放置自転車を削減し、効果的な自転車管理体制を構築	●生協前の放置自転車の整理と法的に合致した処分を行いリサイクル自転車としましょう。 ●より多くの学部にとりくみを知らせ、放置自転車をリサイクルできるように提案活動を続ける必要があります。	

※NOは、「北海道大学2006年度の活動目標」のNOに符合しています。

MEMO-----



発行 北海道大学生協同組合
編集 // 理事会室
060-0808 札幌市北区北8条西7丁目
Mail: seikyou@coop.hokudai.ac.jp